



# 年頭のご挨拶



は ま だ ふ く し  
濱 田 福 司 町 長

新年あけましておめでとございます。  
町民の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、旧年中は、町政各般にわたり温かいご理解と、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、3月の能登半島地震に続き、7月には中越沖地震が発生し、3年前の中越地震の爪あとも残る新潟県を中心に多大な被害が発生し、誠に痛ましい限りでございました。

また、社会保険庁の五千万件にものぼる納付記録の不備問題や、菓子メーカーなどによる食品の消費期限の改ざんが相次ぎ判明するなど、国民の信頼や安全が大きく揺らいだ一年でありました。

国内の政治面におきましては、昨年7月に執行されました第21回参議院議員通常選挙により与党が大幅に議席を減らし、野党が過半数を占めるねじれ現象となり、国政の停滞が懸念されておりますが、国民生活の安定にかかわる政策は、一日たりともゆるがせにせず、推進する必要があるものと考えております。

9月に発足した福田内閣では、「自立と共生」を基本としてお互いに尊重し合い、支え、助け合う温もりのある政治を進めるとしております。

一方、経済面におきましては、引き続き緩やかな景気拡大が続いておりますが、昨年からのサブプライムローン問題や、原油高など、今年の景気の先行きが懸念

されるところであります。

このように明るい話題の少ない一年でしたが、今年はいよいよ良年になりましよう念願いたすものでございます。

さて、我が国は、長く続いた右肩上がりの経済成長の時代から、低成長、少子・高齢化による人口減少へと時代が大きく変化する中で、地方分権の推進など、国も地方もさまざまな改革に取り組んでいるところであります。

当町におきましても、「白岡町改革推進プログラム」に基づき、事業の徹底した見直しと政策選択による効率性、効果性を重視した行財政運営を進めております。

昨年は、町民の皆様の深いご理解と多大なるご協力により、公共施設使用料の見直し、老人福祉センターへの指定管理者制度導入、職員人件費の削減、臨時窓口の開設など、さまざまな改革を着実に進展させることができました。

特に、改革の大きな柱として位置付けた「町民との協働によるまちづくり」につきましては、まず、町民の皆様に関心をお知らせするとともに、町政に関するご意見等をお聴きするため、職員出席前講座、パブリックコメント、地域懇談会を制度化いたしました。

さらに、広く町民の皆様からご意見をいただきながら、「白岡町住民協働推進指針」を策定いたしましたので、今後はこれまで以上に町民の皆様の活力をまちづくりに生かす、協働型の行政運営を進めてまいりたいと考えております。

さて、昨年は市町村合併の議論が、再び高まってまいりました。当町におきましても、近隣市町との意見交換などを進めてまいりましたが、将来の白岡町の姿あり方を決定することとなるたいへん重要な課題であります。

そうした中、昨年、12月定例議会におきまして、歴史的、地理的な面、地域交流、行政状況等や、過去に行われた合併に関する意向調査、前回の住民投票の結果などから総合的に判断し、現状において最善と思われる「蓮田市、白岡町の対等合併」を合併新法の期限内を目指し、進めてまいりたい旨、表明したところであります。

そのため、今年はいよいよ重要な年になると認識しており、改めて責任の重さを痛感しているところでございます。

平成20年の年頭に当たり、私といたしましては、今一度、まちづくりの原点を見つめ直すとともに、長期的な展望の下、子どもたちや孫たちに素晴らしい郷土を引き継ぐため、まちづくりに全力を傾注してまいりたいと考えております。

どうか、町民の皆様方におかれましては、町政運営に対する、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町民の皆様がこの一年のご多幸と、ご健勝を心からお祈り申し上げます。そして、新年のごあいさつとさせていただきます。